This Page Is Inserted by IFW Operations and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents will not correct images, please do not report the images to the Image Problem Mailbox.

42333 K/18

B03

MITH 18.09.81

MITSUI PHARM INC *J5 8049-315 18.09.81-JP-146393 (23.03.83) A61k-31/70 C07h-19/06

low dosage antitumour drugs - based on 5-fluoro-2'-desoxy:uridine 3',5' dijester cpds.

C83-041252

Antitumour drugs contain 5-fluoro-2'-deoxyuridine 3',5'-diesters of formula (1) as active component:

R₂OH₂C

(R₁ and R₂ are the same or different aliphatic acyl or aromatic acyl of ≥ 6C).

ADVANTAGE

(I) give a high level of antitumour effect at very low dose

B(4-83, 12-G5, 12-G7) 2

with high safety coefft, and good prolonged concentration in blood.

PREPARATION

(I) may be produced as described in Biochemical Pharmacology, 14, 1605 (1965).

EXAMPLE

Mouse leukaemia L-1210 ascites tumour cells (105) at 7th day from transplatation were transplanted i.p. into BDF mice. Various cpds. of formula (I) (including comparisons in which R_1 and R_2 are H or < 6C acyl) were administered i.p. once a day for 5 days from 24 hours after trans plantation of tumour cells. Dosage for 30% increment of life span in comparison with control gp. is set as ILS₁₀. Dosage for max. life span (Max.ILS (%)) is set as ILS max. ILS max./ILS30 was set as curing coefficient which indicates the safety of the chemicals. (I) have a high antitumour effect at very low dosage level such as 1/10-1/100 that of 5-fluoro-2'-deoxyuridine.

J58049319

R ₁ = R ₂ =	ILS ₁₀ ILS m (mg.kg ⁻¹ .day ⁻¹)	Max. Curing ax. ILS coeffic-	
H acetyl propionyl butyryl hexanoyl palmitoyl benzoyl toluoyl 3,5-dichloro- benzoyl	50 100 100 300 140 300 190 300 2.3 10 0.45 3.0 0.30 1.0 0.37 3.0 0.25 1.0	54 2.0 44 3.0 59 2.1 40 1.6 38 4.3 56 6.7 47 3.3 60 8.1 45 4.0	
(6ppW69).			
			J58049315



① 日本国特許庁 (JP)

10 特許出願公開

⑩公開特許公報(A)

昭58—49315

⑤Int. Cl.³A 61 K 31/70// C 07 H 19/06

識別記号 ADU

庁内整理番号 6675-4C 7252-4C

❸公開 昭和58年(1983)3月23日

発明の数 1 審査請求 未請求

(全 6 頁)

砂抗腫瘍剤

②特 願

願 昭56-146393 願 昭56(1981)9月18日

②出 願 昭56(1981)9月18日 特許法第30条第1項適用 1981年7月発行キャンサー・ケモセラピー・アンド・ファーマコロジー、第6巻、第1号、第19~23頁に発 表

⑦発 明 者 実吉峯郎

札幌市北区北7条西9丁目中央 第2宿舍2-102

⑪出 願 人 三井製薬工業株式会社

東京都中央区日本橋三丁目12番

J #

明の名称

与許請求の範囲

一般式

HN F

N

R₀ OH₀ C

H

H

H

腫瘍剤

3.発明の詳細な説明

本発明は抗腫瘍剤に関するものであり、本発明の目的は、低用量で高い治療効果を発揮しかつ安全性の高い抗腫瘍剤を提供することにある。 近年、臨床上汎用されている抗腫瘍剤として 5 ーフルオロウラシル類があり、その有効性に 鑑みて新たに種々の5 ーフルオロウラシル類が 開発されつつある。

しかしながら、第二フルを見りました。

THE VICE STREET

Napoli, english

変換され、発極的には、5 - フルオロー 2'ーデオキンクリジンを介して生成される、5 - フルオロー 2'ーデオキシクリジンモノホスフェートがチミジレートシンセターゼの強力な拮抗阻害削として作用するため、腫瘍細胞のデオキンリボ核酸の合成が阻止され、効果が発現することが知られている。

したがつて、5 - フルオロウラシル類の新規な抗腫瘍剤開発においては、上述の5 - フルオロウラシルの中間代謝物である5 - フルオロウリシンあるいは5 - フルオロー 2'-デオキンウリシンに着目し、これらの誘導体の中から有用性を示す新規抗腫瘍剤を見い出そりとする研究も活発に行われてきている。

特に、 5 ーフルオロー 2'ーデオキンクリンンに注目した研究では、 5 ーフルオロー 2'ーデオキンクリンンが in vitro のマクス由来の樹立細胞株の増殖阻害活性において、同一モル農度で、 5 ーフルオロウランルの 1 0 0 倍以上の活性があること、また同様に 5 ーフルオロウリ

場合、血中濃度の半波期が著じく短いこともよく知られている (Bull Cancer (Paris), 66,67(1979), Cancer Research, 32, 1045(1972), Clin. Pharmacol. Ther., 5,581(1964), Bull Cancer (Paris), 66,75(1979), Cancer Research, 38, 3479(1978))。

ところで、本発明者らは最近、5-フルオロー 2'-デオキックリジンの腫瘍細胞に対する作用態度を明らかにするため、マウスリンパ腫細胞を用いて5-フルオロウリジンと比較する形で排細な検討を行つた。

ンンに対しても 10~100 倍の活性をで とが報告されている [Cancer (philad 1121 (1975) . Proc. Amer. Ass. Res., 71 (1976) . J. Cell. Comp 60,109 (1962) . Cancer Resear 730 (1958)] 。

しかしたがら、担価動物を用いた i
の抗腫瘍効果に関する研究では、 5 - 2'-デオキンクリジンは in vitro!
は逆に、 5 - フルオロクランルおよび
オロクリジンのいずれに対しても投与
動物の延命効果において明らかに劣る。
告されている [Cancer Research, 19 (1959).~Proc. Soc. Exp. Biol.
97,470(1958), Proc. Soc. Exp.
N.Y., 104.127(1960). Ann. N
Sci., 76,575(1958)]。

また、上述の in vivo の抗腫瘍効 裏付ける知見として、5 - フルオロー キシグリジンは、ヒトむよびマウスに

見い出し、5 - フルオロー 2'- デオキンの抗腫瘍効果は腫瘍細胞への5 - フ2'- デオキンクリジンの浸漬処理時間に依存すること、またそれ故5 - ブルオデオキンクリジンに担揺生体にかけるに時間が長くなるような性質を付与する。 来れば in vivo の抗腫瘍効果が着しる可能性が示唆された[Europ 25 Ca: 16,1087(1980)]。

さらで、本発明者らは上述の記載で 体内貯留性にすぐれる。 2000年 全性を有する。

ソンの日本体を発表

美国民主义的大学生是一个人

4.9.

すなわち、本発明は一般式

但し、式中 Ri、R. は、同一または異なつてよい。 R は炭素数 6 個以上からなる脂肪族アンル基又は芳香族アンル基を表わす。)

こ示される化合物を有効成分として含有すると こを特敵とする抗腫瘍剤にかかわる。

さらには、上述の一般式[1] で示され、かつつス白血病しー1210 に対して5ーフルロー2'-デオキンクリジンの10倍乃至100以上の抗腫瘍効果を有する5ーフルオロー2'デオキンクリジンの3',5'-ジェステル類か選ばれた化合物を有効成分として含有するこ

に導入した5-フルオロー2'-デオキシゥリンの3'、5'-ジェステル類が抗腫瘍効果を示用量の1/100⁻¹/100 という個めて低用量で、い运命効果を示すばかりでなく、安全保数もく、かつ投与時の体内持続性も顕著にすぐれるととが示される。

別えば、3',5'-ジバルミトイル-5-フルコー2'-デオキンウリジンかよび3',5'-ジャオイル-5-フルオロー2'-デオキンウリビは、マウス白血病L-1210を移植した担マウスの医命日数を30分増加させるに要する年間(ILS:e)が同じ医命効果を示するシャオロー2'-デオキンクリジンの1/100以

時間8858- 49315 (3)

とを特徴とする抗腫瘍剤に関する。。

本発明の化合物は著しく低用量で高水準の抗腫瘍作用を示す有用な医薬化合物であり、上述の一般式[1] で示される化合物であつて、例えば一般式[1] においてRがヘキサノイル場、パルミトイル基、ペンソイル基、トルオイル場かよびパラクロロベンソイル基等である化合物があげられる。

本発明化合物の具体例としては、3':5'-ジャキサノイル-5-フルオロー2'-デオキシゥリジン、3',5'-ジバルミトイル-5-フルオロー2'-デオキシウリジンない3',5'-ジベンソイル-5-フルオロー2'-デオキンウリジンなどがある。

、本発明によれば、一般式[1] で示される化合物は、抗腫瘍効果をマウス白血病 L-1210 を移植した担係マウスの延命効果で調べると、5-フルオロー 2'ーデオキンウリジンあるいは、 皮素数 6 個未満の脂肪族アンル基。3'および 5'部

ンクリジンのそれぞれ 3.3 倍、 4 倍と安全性 b 高い。

また、5 - フルオロー 2'ーデオキンクリジンが5 分程度の血中半減期をもつて、著しく早期に血中より消退するのに対して、両化合物は投与後の血中濃度においても、腫瘍細胞の増殖を阻止するに足る5 - フルオロー 2'ーデオキシクリジン活性濃度を4 8 時間以上持続するという特徴が見い出されており、両化合物の高い抗腫瘍効果を裏付けている。

なか、本発明の化合物には公知化合物点 れている。例とは、

キシックリシンが抗腫瘍効果を示す 10~40 円/ kg/日の投与量の範囲で活性側定を試みているだけで、5 - フルオロー 2'-デオキンクリシンに比べて有意に高水準の抗腫瘍効果を有する有用性の高いものであることを見い出すには至っていない。

本発明の化合物はいずれも本発明者らによつ てはじめて上述の如く低用量で高度の有用性を 示すことが見い出され、医薬としての適用価値 があることがわかつた。

来る。また、製剤化にあたつては本発明の物を2種以上配合させることも可能であり 与にあたつて、本発明の化合物を1種のみあるいは2種以上を適宜選んで併用投与すとも出来る。

が、る種類の投与剤型の中に配合させる 明の化合物の量は、3′、5′部位のエステ 類に応じて特性が異なるので、特に限定す とが出来ないが、臨床用量は1人1日当ま ~500 年の範囲が望ましい。

以下に実験例、実施例をもつて、本発や 容を具体的に説明する。

実験例1:

S - フルオロー 2'-デオキンウリジ .5' - ジェステル類の抗腫瘍活性

本発明の化合物 3', 5' - ヘキサノイジ - フルオロー 2'- デオキシウリジン。 - ジパルミドイル - 5 - フルオロー 2'-キンウリジン、3', 5' - ジベンゾイル

フルオロー 2'ーデオキンクリシン、3'.5'ーシトルオイルー5ーフルオロー 2'ーデオキンクリシン 4 L U 3'.5'ーシクロロペンソイルー5ーフルオロー 2'ーデオキンクリシンにつける 5 一マウス白血病 L-1210 に対する抗腫キンクリシンをよび 以素数 6 個未満の脂肪族アンル基を配した 3'.5'ーシアセチルー5ーフルオロー 2'ーデオキンクリシンと比較した。

TILLS IN THE STATE OF THE STATE

養 野 日東 東京を

加割合で示した。

すなわち、対照群に比し30多生存期で 返長させるに要する薬剤投与量をalLSa 最大延命事(Max. ILS(多))を示すに る投与量をILSmax. として表わした。 ILSmax./ILSa。を治療係数としてそ 剤の安全性を示す指標とした。

結果は表1の通りである。 本発明の化合物はいずれもラースト本 2'ーデオキンクリジンの「/ig Pize/ という極めて低用量で高りが表現。 また安全体でする。

×	-	9	
		- '	•

クリンンのコ

3′,

で腹腔内 0分かよび2、3、 8時間に採血した。得られた血漿中

した。

*

5-フルオロー2'ーデオキンクリジンの3',5'ージエステル類の抗腫瘍活性

結果は表でに示す通りである。

元章

Mex. . B

抗體與估性 ILS. ILSmax.

12

40

. . .

("g · Kg " · day "!)

100 300 300 300 0 -

> 0.30 0.37

> > 31.51-ジクロロヘンンイルー5ーフルオロー21-デオキンクリンン

3'.5'-ジーサンイルー5ーフルオロー2'-デオキンクリジン 31.51ージ・ルミトイルー5ーフルオロー21ーデオキングリジン

31,51+ゲーンイルー5ーフルオロー2'ーデオキシクリジン 3".5'-ジトルオイルー5-フルオロー2'ーデオキングリジン

3'.5'-ジプロピオニル-5-フルオロ-2'-デオキシウリジン

5-フルオロー2'-デオキンクリジン

31.51-37チリル-5-フルオロー21-デオキンクリジン 31.51-17セチル・5-フルオロー21-デオキングリジン

本発明の化合物はい 増殖阻害を示すに足る クリンン活性濃度を

12	5	
\$	ì	
遊覧	Ś	
雙	1	,
-8		
4		•
0		,
- 12		
٠,		
1	٠	
×		
H	v	
•	•	•
1		
'n.		-
	٠.	
•		
n		
0		
7		
١,		

		i i			5	
	48時間	I,	1.	0.0051	0.022	770
	24時間		I .	0.0122	0.032	0.049
(W # :	間 12時間	1.	1,	0.034	0.047	0.074
デオキンクリンン当位:μM)	3時間	0.0017	0.0034	. 88 . 0	21.0	0.12
グイキアク	与 後 6 2時間	0.022	0.017			
75.7	₩ <u>.</u>	6. 9.	e •	5 E	9.5	
Ļ	.V ¢ .∵					-

福州昭58- 49315 (

つきに本発明の抗腫瘍剤の処方を実施例で

がする

M M I

4名明の総合物 20 + 4 + 4 + 4 - A 1 Ö 😽 カルボキングナルセルローネカルンウム・ メデアリン酸マグネシウム

200 9

本錠剤は通常行われるフイルムコーテイン クを行っても差支えなく、さらに楷衣を行う こともできる。

実施例で、 カプセル剤

- 一本発明の化合物

九 用 結晶セルロース

ステアリン酸マグネシウム

本発明の化合物で

乳 糖.

エチルセルロース

コーンスターチ

カルポキシメチルセルロースカルシウム

ステアリン酸マグネシウム

1, 0 4

実施例 4 注射剂

本発明の化合物の水溶液('pH6.0~7.5) で1 単に本発明の化合物 0.3 四~ 100 四 を 含む。

特許出額人

三井製薬工業株式会社